



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2011年5月号

「主題」

- 国際会長 : 「心新たに立ち上がろう」
 アジア地域会長 : 「心新たに立ち上がろう」
 西日本区理事 : 「飛翔たとう ワイズスピリットを胸に」
 中部部長 : 「ワイズはフェイス to フェイス！」(コミュニケーションは顔を見て声をかけて)
 プラザクラブ会長 : 「とにかく楽しくやってみよう」

【LT=leadership training 実務に主体性をおき、10年度の全事業に徹底する。できる限り事業に反映させ、西日本区全体の発展に繋げる。】

5月例会および今後の予定案内

【5月第1例会】

日時：5月12日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：卓話・「震災ボランティア体験」
 : 講師・遠藤恵美子(名古屋YMCAスタッフ)
 4月2日より10日まで仙台YMCAに派遣され、ボランティアらに活動内容・地域などを指示するコーディネーターを務める。

【5月第2例会】

日時：5月19日(木)・18:45-
 場所：名古屋YMCA会議室
 内容：次月例会打合わせ
 出席義務者：役員(島崎・櫛田・後藤)
 6月担当者(大島・後藤)
 7月担当者(未定)

【今後の予定】

- 第14回西日本区大会
 日時：6月11日(土) - 12日(日)
 場所：京都国際交流会館・ウエスティン都ホテル京都
- 6月第1例会(POM)
 日時：6月18日(土) - 19日(日)
 場所：かんぽの宿 知多美浜 TEL.0569-87-1511
 〒470-3233 知多郡美浜町奥田字砂原39
 会費：12000円/名・5000円/名(女性)
- 老人ホームへ音楽慰問
 日時：6月26日(日)
 場所：アミーユ浄心
- 第15回中部部会
 日時：8月28日(日)
 場所：名鉄ニューグランドホテル(名古屋駅新幹線側)

4月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役員	会員氏名	出席者				
		1	2	①	②	③
	大島 孝三郎	○			○	
	大平 純市					
	小澤 幸男	○		○		
書記	櫛田 守隆	○	○			
会計	後藤 猛	○	○			
会長	島崎 正剛	○	○	○		
直前会長	鈴木 誉三	○	○			
	高田 廣	○	○	○		
連絡主事	万福寺 昭美	○	○			
ゲスト	第1例会卓話・名古屋クラブ 3名 四日市クラブ 3名 グランパス 1名 小澤さんの友人2名					
	① Hammond Organ Concert ② Volunteer Network Meeting					
出席率・%					88.9	
1. ニコボックス(震災被災者寄付)		12000			47510	
2. オークション						
当月合計/累計		12000			63910	
6月号ブリテンの寄稿者は高田さんです。 400字詰原稿用紙4-5枚を目安にお願いします。 Eメール moritaka_kushida@ybb.ne.jp						
7月号 大島/8月号 後藤/9月号 櫛田 10月号 万福寺/11月号 小澤/12月号 鈴木						

LT=すべてのリーダーはその役に就く前に十分な研修を受け、任務の遂行に備えなければならない。

4月第1例会報告

日時：4月7日（木）・18：45－20：45

場所：名古屋YMCA会議室

1. 講演：「戦いすんで日が暮れて-名古屋市議選を終えて」

講師：池田千晶氏(中日新聞 社会部記者)



(各クラブから沢山の方に参加していただきました)

リコールで解散した名古屋市議会の出直し選挙は、3月11日投開票され、河村市長が率いる「減税日本」が28議席を獲得した。投票前は投票率50%、過半数(定員75議席)を取ると予想されていたが、11日の震災の影響から「投票中止」と勘違いされた人もおり、投票率34%は減税日本には不利だったようだ。

リコールとは知事・市町村長、議会を住民投票により任期前に解職、解散請求できる制度であり、争点は首長に不正であったり原発建設の是非であったりする。ただし、リコールが成立するには有権者の3分の1以上(40万人を超える自治体は別・名古屋市の有効数36万人分・片山総務大臣は必要署名数の要件緩和を言及)の署名が必要のため、大都市では成立が不可能と考えられ、「減税10%・議員数半減反対」を繰り返す議員たちに市長の支援団体から議会解散のリコールを突きつけられても、彼らは高をくくっていたきらいがある。

当初河村市長は、任期満了に伴う知事選、市長を辞職して出直し市長選、リコールによる住民投票のトリプル選挙を狙い、リコール成立期間を6ヶ月と想定、

市長の支援団体は10年8月27日を署名集め開始し10月4日46万5000人分を市選管に提出した。同日、市選管は「誤字脱字は無効」とする厳しい審査基準を発表、市長は「後だしジャンケン」と怒るも、選管は21日「1部に違法収集の疑いがある」と審査機関を延長、24日有効署名数が1万2000人分足りないと発表する。12月1日3万2000人分異議申し立て、選管は15日有効署名が法定数を超えると発表、17日支援団体はリコールを本請求、21日1ヶ月前辞意を表明、1月21日付で辞職した出直し市長選と市議会解散を問う住民投票が11年2月6日に決定、知事選と合わせトリプル投票が確定した。この時、衆院議員大村氏の知事選出馬は不確実で、河村市長はイライラしていたようだ。

当選した減税日本の議員は、「議員報酬の800万円は今後の議員活動するには少ない、他の党から何らかの手当の提案があれば・・・」と正直な話があったり、素人議員であるだけに初々しさは仕方が無いが、全く予備知識というか勉強をしていない。4月16日付中日新聞の池田千晶記者の署名記事に「当局を問いただすというよりは『青年の主張』的訴えが目立った。多くの議員が、与えられた30分程度の持ち時間を5-10分余らせてしまった。」と書いている。

2. 連絡事項・島崎

(1) 東広島クラブ大震災募金の要請

東日本大震災の義援金募集、1クラブ10kg上限に酒粕を販売しますのでご協力ください。

(2) 東日本区より大震災支援の要請

今後、都合があり次第協力をお願いします。

(3) 太平さん退会

本日大平さんより、仕事との折り合いが付かず3月末日をもって退会、との届出があり受理いたしました。

3. ジャズコンサート・小澤

チャリティーコンサートとします。ご来援よろしく。

4. 6月第1例会(POM)・後藤

場所は幹事(後藤・高田)に一任する。

5. 名古屋クラブ例会開催日変更・相馬会長

従来の第1例会、第2火曜日開催を次年度より第2水曜日に変更する。第2例会は従来通り。

6. ニコボックス金額集計・後藤

本日の献金額12,000円は大震災被災者への義援金としYMCAに託す。

4月第2例会報告

日時：4月21日（木）・18：45－19：45

場所：名古屋YMCA会議室

1. 次期クラブ役員・島崎

会長 ・大島 孝三郎
メール委員
副会長 ・高田 廣
書記 ・榊田 守隆
広報事業
ブリテン委員長
会計 ・後藤 猛
プラザファンド
直前会長 ・島崎 正剛
EMC
YMCAサービス・小澤 幸男
IBC・YEEP
CS・TOF ・鈴木 誉三
BF・EF
BF・JWF
連絡主事 ・万福寺 昭美

2. 例会開催日変更・島崎

第1例会-第2木曜日、第2例会-第4木曜日に変更、実施は新年度7月からとする。

3. 5月第1例会・鈴木

開催日は連休のため5月12日の第2木曜日、4月2日より10日まで仙台YMCAでボランティアらのコーディネーターを務められた、名古屋YMCAスタッフ遠藤恵美子さんの卓話をメインとする。

4. 6月第1例会(POM)・後藤

(1面参照)

5. 老人ホーム音楽慰問・島崎

(1面参照)

HAMONNDO CONCERT

4月9日(土)午後6時頃から東区の「文化のみち 榊木館」でB-3の Hammondオルガンコンサートが開かれた。演奏者に Hammondの女王 田代ユリさんを招きわがクラブの小澤幸男さん・想念寺のポコアポコ・成瀬さん・鈴木さんと常連の出演者。主催者発表で200名が春の夜の少々寒くはありましたが演奏に聞き惚れました。震災後ということで一部をYMCAに寄付されました。

榊木館の庭に面した縁の窓を開け放ち、庭に椅子を並べて出されたビールやおつまみを片手に田代さんの演奏に聞きほれました。小澤さんは練習の結果を遺憾なく発揮され?ホーム訪問と同様にポコアポコの子供たちの優しいコーラスに癒しのひと時を過ごしました。成瀬さんは時間の都合もありいつものファンキーな演奏が聞けずに残念。次回に期待して2時間半がまたたくまに過ぎました。クラブからは鈴木さんと高田さんご夫妻と斉藤さんと島崎夫婦が出席。

(島崎 正剛)

震災支援の立ち上げ会に参加して

4月16日(土)午後5時から名古屋YMCA 3階会議室にて、名古屋IAC(インターアクトクラブ)顧問の鈴木一弘さん(名古屋東海クラブ)の呼びかけでIACのメンバー、OB、OGなどの高校生、大学生を中心にYMCAスタッフ、ワイズも含め35名が集まり「震災支援YMCA ボランティア・ネットワーク」の立ち上げ会が開かれた。東日本大震災の発生以来1ヶ月以上経過した今、YMCA その他の支援活動への協力、参加に関する情報の共有を目的に行われたものです。全体進行役の鈴木さん自身の現地でのがれき撤去、炊き出しなどの報告、YMCA スタッフ遠藤恵美子(愛称キョメ)さんの体験報告もありました。ゲストでお迎えしたフリージャーナリストで特定非営利法人レスキューストックヤード嘱託関口威人さんは、被災支援の在り方、日本基督教団兵庫区被災者生活支援・長田センター主事柴田信也氏は、阪神大震災以後も被災者の支援を実践されて培われたアドバイス、名古屋IACの96/97年度会長山田梓生さんは、東海豪雨・神戸での炊き出しなどの経験からの提案、などを語られた。一般参加者はワークショップの形式で5名ずつに分かれ、「今私たちにできること」のテーマで意見を出し合い各チームから発表されました。すぐにできることでは無理のない募金をすること、刻々と変わる現地からのニーズに的確に対応した支援をすること、継続的に係わっていくことなどでした。

(大島 孝三郎)

悪夢2

自宅階段の2階の廊下に座って階下の水面を見ていた奇妙な感覚を今でも鮮明に思い出す。在ってはならないところに在ってはならないものが在る不思議。暫く茫然と見ていた。住まいのある場所は、路地の奥で線路のそば。通過する電車の騒音と遠く聞こえる車の音が常なのに、鼓動が聞き取れる静けさが支配していた。

当然ライフラインは停止していて、状況は携帯ラジオの情報のみ。携帯電話も通話不能。私の住む地域の細かな情報は入手不能。西区の堤防が決壊したのだろうと推測するのみで、2階の窓から刻々と水かさの増していくのを筋向いのブロック塀の目地を定規がわりに観ながら、どこで増水が収まるのかと不安が募る。自分の置かれている状況の先行きが全く不明。私一人ならこの状況から逃れるのになんとでもなるのだが、年老いた母親と一緒にだと行動が制限される。この洪水

の水は蛇口を閉めるように止めることができないと思ったとき、この2階の部屋が冠水すると生存も危ぶまれると思い、119番に救助を依頼した。そして状況を説明して返ってきた返事が「自分のことは自分で処理してくれ。それどころではない。」迫る危険を思い救助を依頼しても集団になると十把一絡げ。幸い筋向いのブロック塀の6段目位で洪水は止まった。そして静寂は、何機ものヘリコプターの騒音にあふれた。その音は私には騒音以外何物でもなかった。

その夜の事は覚えがない。多分2階で過ごしたと思うが、途切れて思い出せない。翌日の午前10時頃に、外で微かに名前を呼んでいる声が聞こえた。空耳なのかと聞き耳を立てる。確かに声が聞こえる。2階の窓から声の方へ身を乗り出すと洪水の濁り水に首まで浸かり、海水浴で使う子供用のカラフルなゴムボートを引いて女房の妹の主人と避難していた息子が救助に来た。母親をボートに乗せ、洪水に浸水した我が家を首まで浸かりながら脱出した。

それから50日くらいは女房の北区の実家に身を寄せて、毎日後片付けの為に西枇杷島の家へ徒歩での往復。晴天の続いたことや多くの知人や友人の手助けを受けて孤独の復興は終わった。そして当時合併前の西枇杷島町の災害復旧の対応は近隣の町村に比較して一番遅いものとなった。行政も被災して機能不全に近かったからだ。そして今でも夏になると必ず天気予報の天気図を注視し、雨の降り方に気を掛ける。11年前の災害の記憶は消えない。

今回の東北の震災は桁違いの災害。民放は耳障りのいい宣伝を毎日のように繰り返しているが、いずれブームはさる。今回無傷の私は、毎日放送される被災地の悲惨な映像や感動的な話を今は見もし聞きもするが、3ヶ月もすると見なくなるし聞かなくなってくる。ひどい話だが飽きてくる。私は選択できるが、被災者は常に現実と直面し、そこから立ち去り逃れることは出来ない。まだ解決の糸口が見つかる人は幸いだが、出口の見えない被災者は孤立を深める。人の間に深い溝ができる。その時の孤独と孤立を思うとき、災害の傷跡以上に深く心の奥に人災の爪あとを刻む。被災者は決して十把一絡げでは無く、一人一人に固有の深い傷を負う。TVから流れる耳障りのいい言葉を聞くに付け腹立たしく思う。その言葉に責任を持てるのかと。

日本人は農耕民族である。欧米の狩猟民族とは基本的に生き方が違う。その土地に根付き開墾しそこから収穫を得る。収穫までの過程は、狩猟民族の食物を得る手段と違い、多くの手間隙がかかり、自然との繋がりははるかに深いと思う。どれだけ多くの自然災害に遭遇し惨禍に見舞われて現在に至っているか。本来自然に添って生きたとしても、自然の猛威に対峙し、征

服する生き方は選ばなかった。そこで蓄積した魂は、DNAにしっかりと刻まれ今回の未曾有の災害に対してもきつと力を発揮するはず。

小説の「風とともに去りぬ」のビビアンリーのように「明日は明日の風が吹く」と、そしてかつて戦火に見舞われ8人の家族を殺されたボスニアヘルツェゴビナの農民の老婆の「神に試されている、負けはしない。」とTVに映し出された姿を思い起こす。今回の災害でも時々TVのなかで耳にした言葉で「生き残った私たちには、死んだ人の分までやらなければならない役割がある。」けなげにも女子高校生の発言である。ふと戦時中の少女の言葉ではと耳を疑う。同様に私にも役割がある。5年10年と道のりは平坦ではない。逃げずに関わりつづけ、気に掛けて行こうと思う。-おわり(島崎 正剛)

聖書の言葉

【わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。(ヨハネの福音書 6.56)】

【そうだ うれしいんだ 生きるよろこび
たとえ 胸の傷がいたんでも
なんのために 生まれて なにをして 生きるのか
こたえられない なんて そんなのいやだ!
今を生きる ことで 熱い ところ 燃える
だから 君は いくんだ ほほえんで
(やなせたかし作詞「アンパンマンのマーチ」より)】

【わが家へ4歳と小学2年の孫が遊びに来る度に、4歳の子にアンパンマンの絵を描かされる。大きな丸の真ん中に3つの丸を並べてホップと鼻、鼻の下に半月の口、目は縦に楕円とその上に眉毛を描けば完成だが、この頃は「手も足も」とか「飛んでるところ」とか、色々注文が多い。今テレビから震災の被災者を励ます「上を向いて歩こう」の歌が流れている。聞いた避難所の人たちに「いまは上を向いて歩けねえ、前向いて歩かねば」と雑ぜつ返されている。もっと野暮ったく、子どもにもわかる、戦って弱った相手に自分の顔を食べさせて助ける優しいヒーローの歌、「アンパンマンのマーチ」が相応しい。作者のやなせたかし氏は、アンパンマンが誕生した経緯をサンリオ発行の冊子に「子どものころ遠くの町へ遊びに行くと財布を落とし途方に暮れていた時、偶然友人とそのお母さんに会い、一緒に帰る電車の中で食べたアンパンほどおいしい食べ物を知りませんでした。『ぼくはその時に思った。本当のスーパーマンは、ほんのささやかな親切を惜しまない人だ』と書いている。そして、「あらゆる行動の基準は正しさではなく、優しさです」と。】